

第14回滋賀県自治創造会議 提案テーマ一覧

団体 提案 名	整理番号、テーマ名およびテーマの趣旨（概要）
①滋賀県の平成25年度予算編成に伴う市町に関わる施策についての事前協議について	
長 浜 市	<p>現在、県も市町も平成25年度の予算編成事務にとりかかっている時期ですが、予てより県においては、市町に大きな影響を及ぼす施策にもかかわらず、事前説明もなく唐突に施策の方向転換や補助の打ち切り、新たな制度の創設をされたことにより、市町は大きな混乱の中で予算編成事務を行わなくてはならなくなっています。</p> <p>前回の自治創造会議において、市長会から県市町対話システムの運用についての提案があり、さらに検討される中ではありますが、予算編成のみならず、県と市町の協議の場については、県と市町が真に対等・協力のもとに運営し、市町からの意見を制度設計等に的確に反映がなされるよう、県はあらかじめ十分な時間的な余裕を持って協議をいただきたい。</p>
②原子力安全協定について	
危 機 滋 賀 管 理 （ 局 防 ～ 災	<p>福島第一原発事故以来、国民の原発に対する不安が高まっている中、若狭地域の原発に隣接する県として地域住民の安全・安心を確保し、周辺環境の保全等を図るため、「原子力発電所にかかる安全協定」の締結に向けて、昨年度より自治創造会議の決定による代表者会議を通じて原子力事業者と協議を進めてきたところである。</p> <p>10月17日に開催された原子力安全協定に係る第4回代表者会議を踏まえ、事業者側との交渉経過の報告と最終交渉に向けての今後の進め方について、意見交換を行いたい。</p>
③河川の整備について	
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の水害対策（河川の整備方針）について（大津市） ・河床切り下げで水面の見える河川整備（愛荘町） 	
大 津 市	<p>本年9月に、一部の地域を除いて公表が行われた地先の安全度マップは、どのような洪水にあっても、人命が失われることを避け、生活再建が困難となる被害の回避を目的として、自助・公助・共助が一体となって、川の中の対策に加えて川の外の対策を総合的に進めていくとする、「流域治水」を着実に推進させるための基礎情報として活用することを目的に作成されたものである。県民は自らの住まいを含む地域の水害リスクを理解し、避難方法の把握や自らの住まい方を考える上での信頼できる情報として利用していくこととなる。</p> <p>しかし、想定されている降雨規模を上回る降水があった場合、想定されている区域以外においても、身近な小河川や水路が溢れるなどの水害が発生する恐れが高まり、生活再建を阻害する災害になりかねない懸念があることはいうまでもない。</p> <p>去る本年8月13日深夜から14日未明にかけ、短時間に記録的な降雨がもたらされた本市南部地域においては、最大時間雨量がマップ上での10年確率とほぼ等しい50mm程度であったが、床上浸水9戸、床下浸水150戸が発生したことに加え、護岸損壊などの河川への被害は59箇所にもものぼり、被害を受けた地域への流出土砂等撤去には9日間、延1,200人も人的支援を要することとなった。</p> <p>本市としては、地先の安全度マップの正しい理解や活用が行われることと併せて、河川整備方針と河川整備計画に基づく河川の整備や維持管理を滋賀県により十分に行っていただくことが、人命が失われることや生活再建が困難となることを避けるうえで重要な要件になると考えているところであるが、この度の降雨災害による被害を受けた地域の住民は、マップの活用に理解を示しつつも、むしろ、速やかな河川整備の実施を優先されるべきと強く訴えていることが現実である。</p> <p>滋賀県では、「中長期整備実施河川の検討」により、河川整備の優先度を示されているが、氾濫時に人的被害が予見されているトランク河川については優先度の低い河川として示されているところである。この度の本市南部地域における被害の状況をみると、トランク河川あるいはそれ以外の優先度の低い河川にあっても深刻な被害が発生している現状があることから、人的被害あるいは経済的損失を抑制するためにも、県民に対し、地先の安全度マップの公表とあわせ、「ながす対策」として、これらの河川の整備方針についても示す必要があると考えるが、このことについての意見交換を</p>
愛 荘 町	<p>県内河川は、河床が高く天井川が多い。近年、局地的豪雨が頻発し、しばしば避難準備水位を超える。河床切り下げで安全度を上昇させる。</p> <p>県内河川は、平常時、ほとんどの河川は水面の無い河原状態である。河床は高く危険極まりない。川には雑木・雑草が繁茂し、流通阻害を起こし、河川景観も悪い。そこで、川幅を拡大することなく常時、水面の見える高さまで河床を切り下げる。橋の架け替えは必要となるが、ダムや河川幅拡大より安くできるし、掘削時には良質の砂利や骨材が採取できる。</p> <p>その後の雑木伐採など河川維持管理費も軽減できる。</p> <p>河川景観は回復し、人が憩え、生態系も多様になる。</p>